



福井県PTA

◆発行者：福井県PTA連合会 会長 山本久徳 広報委員会
 ◆発行所：〒918-8135 福井市下六条町14-1 (福井県生活学習館2階) TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333
 ◆ホームページ：http://www.fukui-pta.jp (社)日本PTA全国協議会 http://www.nippon-pta.or.jp/
 ◆E-mail：mail@www.fukui-pta.jp



CONTENTS

◆会長あいさつ	2	◆環境委員会活動	5
◆日本PTA全国研究大会京都大会に参加して	2	◆地区別研修会	6~8
◆日中友好「少年少女の翼」に参加して	3	◆県P掲示板	8
◆子育て研修会	4	◆編集後記	8
◆生涯学習委員会活動	5		

ごあいさつ



福井県PTA連合会 会長 山本久徳

今年度、会長を務めさせて頂きたく思います。どうぞよろしくお願い致します。

今年度は、「子どもたちの幸せ」をテーマとして活動を行っております。

童謡詩人 金子みすゞさんの詩「こたまでしようか」にうたわれたように人の言葉や態度はこたまでのように相手の心に反射して返ってきます。

我が子にもっとも近いところにいる私たちがどの様な態度で表情でいるか自らを振り返ることも必要でしょう。

子どもに笑顔で話しかければ、笑顔が返ってきます。「ありがとう」と感謝することで、幸福が見えてくるのではないのでしょうか。

私たちは、子どもたちの幸せを願い、また将来、社会のために力強く歩んでくれることを信じて活動しています。

一人の子どもの幸せのためには、友だちとの友情、クラスのまとまり、安心して通える学校、地域のつながりなど子どもたちを包み込む環境が大切です。そして、安心して過ごせる家庭、話を聞いて認めてくれる人が必要です。

クラスや学校生活の中で先生が指導しやすいよう学校との信頼関係を築き、同じ年代の子どもたちを育てる保護者のつながりを深めることで子どもを支える土台ができると信じます。その中でPTA活動は大切な役割を担っています。

PTA研修会、交流などに積極的に参加して、新しい知識や共感できる仲間を増やし、私たちも子どもたちの成長とともに少しでも伸びていきたいものです。

これからも、PTA活動に、ご理解ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

『こたまでしようか』

金子みすゞ

「遊ぼう」っていうと

「遊ぼう」っていう。

「ばか」っていうと

「ばか」っていう。

「もう遊ばない」っていうと

「遊ばない」っていう。

そうして、あとで

さみしくなって、

「こめんね」っていうと

「こめんね」っていう。

こたまでしようか、

いいえ、誰でも。

第60回日本PTA全国研究大会京都大会が8月24日・25日の二日間にわたって、「いのち ころ ゆめ ~伝えよう つなげよう 育もう~」をスローガンに、京都各地で開催されました。子どもが安心して育つ環境づくり、親子の絆、学校との連携、地域とのつながりの大切さなど、様々なテーマで、全国から約8200名、福井県からは55名の皆さんが参加され議論を行いました。

24日は京都府内6会場にて分科会が開催され、それぞれ基調講演、パネル討論を行いました。特に「絆」をテーマにした宇治市文化センターの分科会では「尾木ママ」の愛称で知られる教育評論家の尾木直樹さんが基調講演をされ、いじめの対策について「学校が策定した防止プログラムが実行しているかを評価する形で、PTAが共同参画して取り組むべき」と話されました。また、京都市内のみやこメッセージでの分科会では、大蔵流狂言師の茂山七五三さんが、幼少から親や祖父に狂言を教わった経験から「うまくできたら思い切り誉め、だめなら叱る」と厳しくも温かい子育てを勧めました。また、女子バレーボールの元全日本代表でスポーツキャスターの大林素子さんは、コンプレックスだった背の高さを、母の助言で受



日本PTA全国研究大会 京都大会に参加して

福井県PTA連合会 副会長 石川 浩

け入れられたと明かし「子どもによって合う言い方やサポートがある」と語りました。嵯峨御流の華道家の辻井ミカさんは、生花を通して「人と自然の調和が風景であって、風景の喪失は人の心の喪失でもある。自然とのふれあいで生み出される精神と自然美の融和の心の育成が必要である」と話されました。



25日は京都市の国立京都国際会館で全体会が、平野文部科学大臣、京都府知事、京都市長をはじめ多くのご来賓をお迎えして開催され、京都大会での大会宣言並びに大会決議を承認しました。また、全体会の記念講演としてシンガーソングライターの加藤登紀子さんが「スマイル・レポリューション」と題し、歌と話で会場を盛り上げました。特に東日本大震災直後に作詞・作曲した「今どこにいますか」など、子どもたちに向けたメッセージを披露した時には、会場の涙を誘っていました。最後に、日本PTAの事業である、震災被災者支援活動「心のきずな61キャンペーン」に対して、全国の各PTAが一致して推進することを確認し、京都大会を閉会しました。

本大会に参加し、多くのことを学び、経験をした二日間でした。この学びを、地元のPTA活動の中に活かしていきたいと思ひます。



日中友好「青少年の翼」に参加して



感動をありがとう

足羽第一中学校

三年 井上美桜

自分は今回「日中友好青少年少女の翼」に参加をして中国の文化に触れ、たくさんのお話を学びました。自分にとって、あの五泊六日は全てが初めてで、とても新鮮に感じました。他県との友達をつくり話したこと、飛行機に乗って海外に行ったこと、そしてその海外にまで友達をつくったこと。最初のうちは、友達ができるか、上手くやっつけていけるかなど不安は消えませんでした。しかし、同じ班の人達が積極的に話しかけてくれてとても嬉しかったです。

そんなことを思っているうちに六日間は、一瞬のうちに過ぎてしまいました。その中で、心に残っているのは北京師範大学第二附属中学の生徒との交流と万里の長城に登ったことです。交流時では中国の生徒の英語に圧倒され驚きました。ペラペラに話せていて大丈夫かなあと思ったけれど友達と和訳しながら会話を



続かせることができ楽しい交流になったと思います。万里の長城は思っていた以上に坂が急で少し恐くもあり、登った道のりを振り返って達成感に満たされもしました。他にも思い出となったことは数えきれないほどあります。

この経験をこれだけで終わらせず、これからの生きていく道に生かしていきたいです。ありがとうございました。

短かった六日間

美浜中学校

三年 宇都宮桃佳

私は昨年「日中友好青少年少女の翼」に参加するはずでしたが、東日本大震災の影響で中止になってしまいました。しかし今年こうして参加する機会を与えられ本当にうれしかったです。PTAの皆さんありがとうございました。

私が特に印象に残っている事は、現地の中学生の流暢な英語です。学校の説明はすべて英語でしてくれました。また歩きながら日本のアーティストなどについても英語で話をしました。そして、現地の中学生同士の会話も英語で話しているのを見てびっくりしました。私はこの交流会で「もつと英語を勉強して色々な国の色々な人達と話をしたい。」と思いました。

次に印象に残った事は、万里の長城に登ったことです。頂上までは登れませんでした。途中からの眺めはとてもしっかりかったです。教科書



やテレビで見たのとは違う万里の長城を見ることができても感動しました。

六日間はあっという間に過ぎました。しかしその間に沢山の思い出を作ることができました。それは、リーダーと班のみんなのおかげです。またみんなで会いましょう。本当にありがとうございました。再見—
謝

子育て研修会

「親子のコミュニケーション」

親子の心ひなぐらで

子育て委員会 委員長 松 永 恵 美



八月四日(土) いまだて芸術館において、平成二十四年度 第三十一回福井県PTA連合会子育て研修会が行われました。猛暑の中、県内各地より百九十五名の方にご参加をいただきました。今年度は、「コミュニケーションで親子の心ひなぐら」と題し、社会福祉法人北日野こもれび会福祉施設『びーぶるファン』施設長田辺義明氏に講演をしていただきました。その講演の内容をご紹介します。

八月四日(土) いまだて芸術館において、平成二十四年度 第三十一回福井県PTA連合会子育て研修会が行われました。猛暑の中、県内各地より百九十五名の方にご参加をいただきました。今年度は、「コミュニケーションで親子の心ひなぐら」と題し、社会福祉法人北日野こもれび会福祉施設『びーぶるファン』施設長田辺義明氏に講演をしていただきました。その講演の内容をご紹介します。

挨拶は「コミュニケーションの第一歩」

コミュニケーションの第一歩は挨拶と返事です。親子関係で、これがとれていないと黄色信号です。挨拶や返事があれば、思春期の時期でも大丈夫です。悩む必要はありません。子どもから挨拶や返事が返ってこなくても、私は親から挨拶をすべきであると思っています。思春期には、「挨拶は、一言わななくてもいいです。心配ありません。」

やる気と意欲

今日の隠れたテーマでもありますが、人生を決めるのはやる気です。や

る気、意欲が育っている子どもは、どんどん伸びます。そして、子どもをその気にさせる方法がちゃんとあります。そもそも、やる気や意欲とは何でしょうか。やる気は感情の一つです。だから、やる気だけを育てようと思ってもダメです。脳科学によると、感情は一つの固まりなので、感情全体を開発していくと良いことがわかってきました。全部を引き上げていき、しかも引き上げ続けたい。

では、具体的にどうしたらよいのでしょうか。それは、「おしろい」「きれい」「くやしー」など、親子がたくさん一緒に経験することです。そうすることで感情が開発され、やる気も意欲も一緒に開発されます。みなさんは、家庭で感情を育てていますか。しかも、それをやり続けていますか。親子でいっしょになりましょう。

感情とやる気を育てる「八つのポイント」

その気にさせる第一は、聞き上手になることです。最初から最後まで、話の腰を折らずに相手の手を入れながら、ゆっくりと聞くことなのです。子どもの身になって聞きます。「後でね」はダメです。できるだけそのとき、その場で聞く。そうすると、子どもはどんどん話すようになります。実はそれは、学校の復習にもなっているのです。

す。話し方のコツを学ぶ機会にもなっています。子どもの話をちゃんと聞かない親が「先生の話をちゃんと聞け」と言ってもダメですよ。聞きヘタは、話をしない子どもを作ると覚えてください。

その気にさせる第二は、**ほめる、認める**ことです。これは、日本人が下手なことです。子どものことを思ったときに、欠点はいっつも言えますが、ほめる点はなかなか思いつきにくいものです。ではどうしたらよいのでしょうか。ほめるためのキーワードを、いつも心に持っておくのが大切です。そして日常の話のネタに、それらを入れていきます。そうすると、子どもの隠れた才能を発見し、開発することに効果的となります。その際に注意したいことがあります。兄弟は、愛情の取り合いをしているので、決して、兄弟と比べてほめることです。これはやってはダメなことです。また、ほめる時に肌のふれあいを伴って、効果は抜群です。

その気にさせる第三は、**叱る、HIT**です。叱るときは、ユーモアのセンスを持って叱りましょう。皮肉にならないようにつとめ、身振り手振りを添えて、叱ります。また、その行為だけを叱り、性格を叱ってはいけません。昔のことを思い出して叱ってもいけません。そして、そ



その気にさせる第四は、**集中力のなごいさ**に落ち着きのなごいさを混同しないことです。その気にさせる第五は、**親の小言に気をつける**ことです。たぶん、小言の八割は言わなくてもいいことだと思えます。言わなくてもいいことばかりが続けると、家がごちゃごちゃ場所になっ

現場で叱ることや、何を叱っているのかを説明することも大切です。他人を持ち出して叱ったり、長々と叱らず、厳しく短く叱ると良いです。また、目の前に座らせて叱ると、圧力が強すぎるので、横に座らせる方が良いと思います。右脳(感情脳)と左脳(論理脳)の違いから、右側に座らせるか、も工夫すると良いです。

その気にさせる第六は、**子どもをよく見る**ことです。よく見ることは、個性を発見することにつながります。そして個性の発見は、子どものやる気につながります。

その気にさせる第七は、**負い目は捨てる**ことです。負い目に対して、焦らず、気楽に取り組めば、人生の武器が手に入るかもしれません。

その気にさせる第八は、「**今やれ、すべやれ、ちゃんとやれ**」は、**やる気を失う**ことにつながります。やる気は育てるものです。感情を育てることを、親は一生懸命すべきです。しかも、他人に任せないこと。子どもと一緒に、学校で感情を育てましょう。

生涯学習委員会活動

生涯学習委員会 委員長 佐々木 敦子

生涯学習委員会では、家庭、学校、地域とのコミュニケーションを深め、基本的な生活習慣の確立を目指して「我が家の三原則」を募集、推進しています。今年の作品には、「大丈夫？って言おう」「みんなと仲良く、声をかけよう！」などいじめに関する言葉も多く見られ、心を打たれました。いじめは絶対にあつてはいけません。見てみぬふりの社会から、相手を気遣う、声をかけよう社会に変わらなさいといけないのではないのでしょうか。

親が子に温かい心の教育をする。まずは家庭から、声をかけよう、家庭でのきまりを作る。我が家の三原則が、その一歩になれば幸いです。

また、十二月八日(土)に今年度の県PTA研究大会を開催致します。我が家の三原則の表彰、いじめについての対応策を考える、そして今回は、シンガーソングライター川本真琴さん・一途の皆さんをお迎えして「いじめと命」をテーマに、歌とトークを企画しております。是非、多くの皆様にご参加頂きますようお願い申し上げます。

小・中学生、思春期の子ども

第54回福井県PTA連合会研究大会

子どもたちの幸せみんなてサポート
～笑顔とありがとうがこだまするように～

「一筆啓上・我が家の三原則」表彰式
委員会発表 いじめについての対応策を考える！
講演 川本真琴・一途 歌とトーク
テーマ **いじめと命**



平成24年12月8日土曜日13:00～16:00
福井県生活学習館(ユウ・アイふくい)多目的ホール

私たちは時には、悩み、苦しむ事もあるでしょう。そんな時、家族の支え、ぬくもり、先生からの励まし、地域の皆様からの応援は、とても大きな励みになります。沢山の愛情とお力で、子どもたちを温かく見守り、支えて頂きたいと思えます。

子どもたちには、強い心で何事も乗り越える力を培ってもらいたい、そして、安心して通える、いじめのない明るい学校生活をおくってもらいたいと願っています。私たち生涯学習委員会全員が力を合わせ、子どもたちが笑顔でいられるように、子どもたちの為に何ができるのかを考え、全力で取り組んでいきたいと思っています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

安全・安心そして笑顔で

環境委員会 委員長 高畑 徹

環境委員会では、子どもたちが安全・安心そして笑顔で日々過ごしていけるよう、PTAとして何が出来るか、また何をすべきかを委員会活動を通じて考えていきます。

各テーマとしまして以下の事を課題とし、PTAとして取り組むべき事を考えていきます。

1. 『いじめ問題』について

悲しい事件が発生している昨今、我々PTAとしても撲滅に向け、また早期に見つけるにはどうするべきかを考えていきます。

2. 災害時の対応について

先の東日本大震災の際には、避難することの判断が生死の明暗を分けました。災害は何時起きるかわかりません。しかし、その対応についてあまりにも知識が乏しいような気がします。不幸にも遭遇した際に、生き残る力その術をさらに探求していきます。

3. 登下校時の事故の防止について

通学中の列に自動車が出っ込むといった防ぎようの無い事故も発生しています。安全マップの作成また活用、危険箇所の拾い出し、改善要望等行っていくべきことを考えていきます。

その他、『食の安全』、『見守り隊活動の現状』、『タブレット型携帯端末等の使用状況とその問題点』等々いくつもの問題があると思えますので、委員一同、力を合わせ頑張っております。

各単位PTAの皆様におかれましても、アンケート活動等を通じて協力をお願いする事になることかと思えますが、何卒ご協力を賜り、貴重なご意見を頂戴できれば幸いに存じます。一年間よろしくお願い致します。

地区別研修会

坂井地区

坂井ブロック長 清 兼 勝 己

六月二十三日(土)坂井地域交流センター「いねす」において、坂井地区の地区別研修会を開催しました。坂井市教育長 川元利夫様よりご祝辞を賜り、講演会、実践発表を行いました。

敦賀短期大学教授 龍谿乗峰氏より「ひきこもり現象は、今に何を警鐘しているか」のテーマで講演を頂きました。ひきこもりとは、特定の病気や障害ではなく「状態」をさす。誰にでも起きうる事態であり、回復することが十分可能。「こころの病」が強く影響している場合もある為、家族や周りの人の理解と支援が必要、とのことでした。

あわら市細呂木小学校PTAからは、毎年十一月に地域のお年寄りや保育園児を招待し、地域ぐるみで行う、秋まつりの様子等が発表されました。一昨年、地道な活動を認められ県より表彰を受けた、ほそろぎつ子見守り隊による、通学路の除雪作業の様子も紹介されました。

坂井市春江中学校PTAで

は、資源回収時の混雑を解消する為、ドライブスルー方式の資源回収を試みたとのことです。いくつか問題は残ったが、効果はあった、とのことです。その資源回収時に集めた使用しなくなった制服、体操服を、格安で希望者に販売するユニークな活動も発表されました。

いつの時代も子どもたちに降りかかる問題が絶えることはありません。今後も様々な状況に対応するため、家庭教育、PTA活動、地域との連携、それぞれを充実させていくことが不可欠です。このような研修会も、PTA役員だけでなく、一般会員の方々が多く参加していただけるよう取り組んでいきたいと思っております。



丹南地区

丹南ブロック長 濱 野 純 行

越前町朝日生涯学習センターにおいて、六月三十日(土)に丹南地区の研修会が開催されました。

研修会では、仁愛大学の堀江和代氏による「食べる力は生きる力 今、なぜ食育か？」という演目で講演を頂きました。食べる力には、タイミングよく食べる力、ポリウムを知る力、バランスよく食べる力の三つの力があり、この力に身につけ、おいしく調理し、みんなと感謝して食べることが大切で、成長急進期の子どもにとって、よい食べ方は良い人生につながる、といふことでした。改めて食べることの大事さを知ることが出来た時間でした。

続いて、各単位PTAの実践発表を行いました。小学校の実践発表では、児童の活動、保護者と先生の活動、老人会の活動それぞれの活動を通じて児童の心の中に主体性や協調性、目上の人への尊敬の念、親と子の間に生まれる新たな絆などを感じ取ることの出来る発表でした。中学校の実践発表で

は、命のぬくもり体験学習(赤ちゃんだっこ)を通して命の尊さ、家族や周りの人への感謝の気持ちを確認することの出来る内容でした。

昨年の大震災または悲惨な交通事故、いじめ、児童虐待、あるいはインターネット、携帯端末によって子どもたちが事件や事故に巻き込まれるなど、子どもを取り巻く環境は厳しい状況であります。私たちはこのような現実を直視したうえで、親同士のネットワーク作りを進め情報交換しながら、子どもたちの教育、笑顔作りのために、様々な事業を通して会員の資質向上に取り組んで行きたいと思っておりますので、これからも一人でも多くの会員の皆様に参加をお願いしたいと思っております。



嶺南地区

嶺南ブロック長 三木章史

今年度は七月十四日(土)に嶺南ブロック地区別研修会が、若狭町中央公民館で開催されました。大変暑い日ではありましたが、参加者の真剣な表情が印象的でした。

基調講演では、福井大学教育地域科学部の戎利光教授より「子どものからだの健康科学」家庭と学校、できれば地域も関わりを」とをテーマに、現代生活における子どもたちの健康についてご講演をいただきました。

今の社会の中で、子どもたちが抱える病気や悩みの原因を科学的に根拠を示していただき、その改善のために家庭や地域がどのように取り組んでいけばよいのか道筋が明らかになった、大変意義のあるご講演でした。

実践発表では、若狭町立鳥羽小学校PTAが「鳥羽谷の子どもたち」をテーマに取り組みを紹介してくださいました。子どもたちが主体的に行う体育行事などを、縦割りのグループで行うことで思いやりの精神が育まれることや、地域が行う行事に学校全体として参加し、地域と学校のつながりを深くしたことで、地域全体が活性化していたことが発表されました。

また、小浜市立小浜中学校PTAからは『PTAと生徒会共催の「教育講演会」の取り組み』をテーマに取り組みを紹介していただきました。発表のなかで、講演会に雅楽演奏会や中国雑技団を招き、子どもたちが日常味わえないものを体感させ、国際理解や異文化理解に役立っていることが報告されました。

面校PTAともに、今後のよりよい継続や費用負担等について課題をもっていることも併せて発表をいただきました。どの地域においても、まずは子どもたちのことを思い活動をされていることがわかり、有意義な実践発表会となりました。最後に、地区別研修会を開催するにあたり、多くの皆様にご協力いただきましたことに深く感謝するとともに、ますます楽しいPTA活動が展開されることをご期待し報告いたします。



■平成24年度 福井県幼・小・中PTA活動地区別研修会

研修会名	期 日	会 場	講 師	実践発表校
坂井地区	6月23日(土)	坂井地域交流センター「いねす」	敦賀短期大学 教授 龍谿乗峰氏	あわら市細呂小学校PTA 坂井市立春江中学校PTA
丹南地区	6月30日(土)	越前町朝日生涯学習センター	仁愛大学 教授 堀江和代氏	越前市吉野小学校教育振興会 越前市武生第一中学校教育振興会
奥越地区	7月 1日(日)	多田記念大野有終会館「結とびあ」	和田教育研究所 所長 和田周平氏	大野市上庄小学校PTA 勝山市立野向小学校PTA
福井・永平寺地区	7月 7日(土)	福井県生活学習館多目的ホール	福井市まつきの児童館 前館長 津田節江氏	梅園幼稚園PTA 福井市下宇坂小学校PTA 福井市社中学校PTA
嶺南地区	7月14日(土)	若狭町三方中央公民館大ホール	福井大学 教授 戎 利光氏	若狭町立鳥羽小学校PTA 小浜市立小浜中学校PTA

県P掲示板

今後の活動案内

■第五十四回福井県PTA研究大会
日 時：平成二十四年十二月八日(土)
講 演：川本真琴(シンガーソングライター)
一 途

テーマ：「いじめと命」

会 場：福井県生活学習館 多目的ホール

■県PTAゆめ基金・小規模校支援募集月間

平成二十五年一月

■県PTAゆめ基金協力月間(書き損じハガキ等の回収)

■PTA諸活動関係者の表彰推進期間

平成二十五年二月

■平成二十四年度県PTA活動のまとめ冊子

広報紙一〇六号の発行・配布

平成二十五年三月

■平成二十四年度広報紙コンクール作品募集

平成二十五年三月

お知らせ

学校給食の安全・安心確保のため放射性物質の検査結果が県ホームページに公表されています。

編集後記

大きな問題となつていける「いじめ」残念でなりません。子どもたちのちよつとした小さな変化を感じとり、対応していかなければなりませんね。子どもたちが幸せに生きていける学校・社会をつくってまいります。

お陰様で、広報紙一〇五号の発行となりました。作成にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

広報委員会 委員長 伊藤史朗